
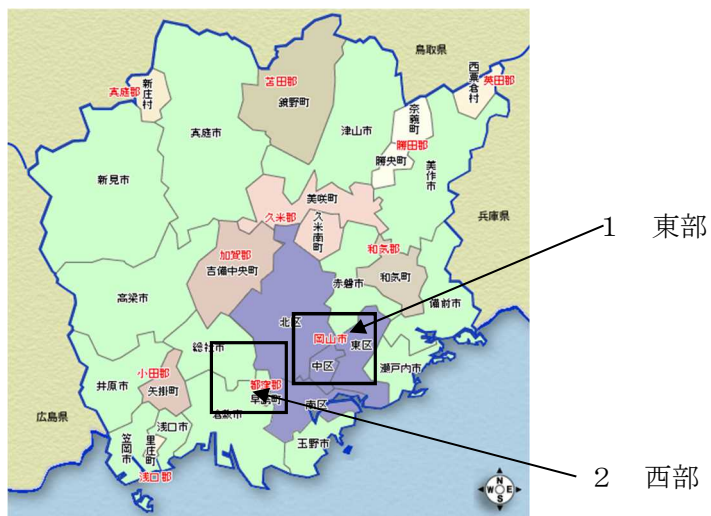
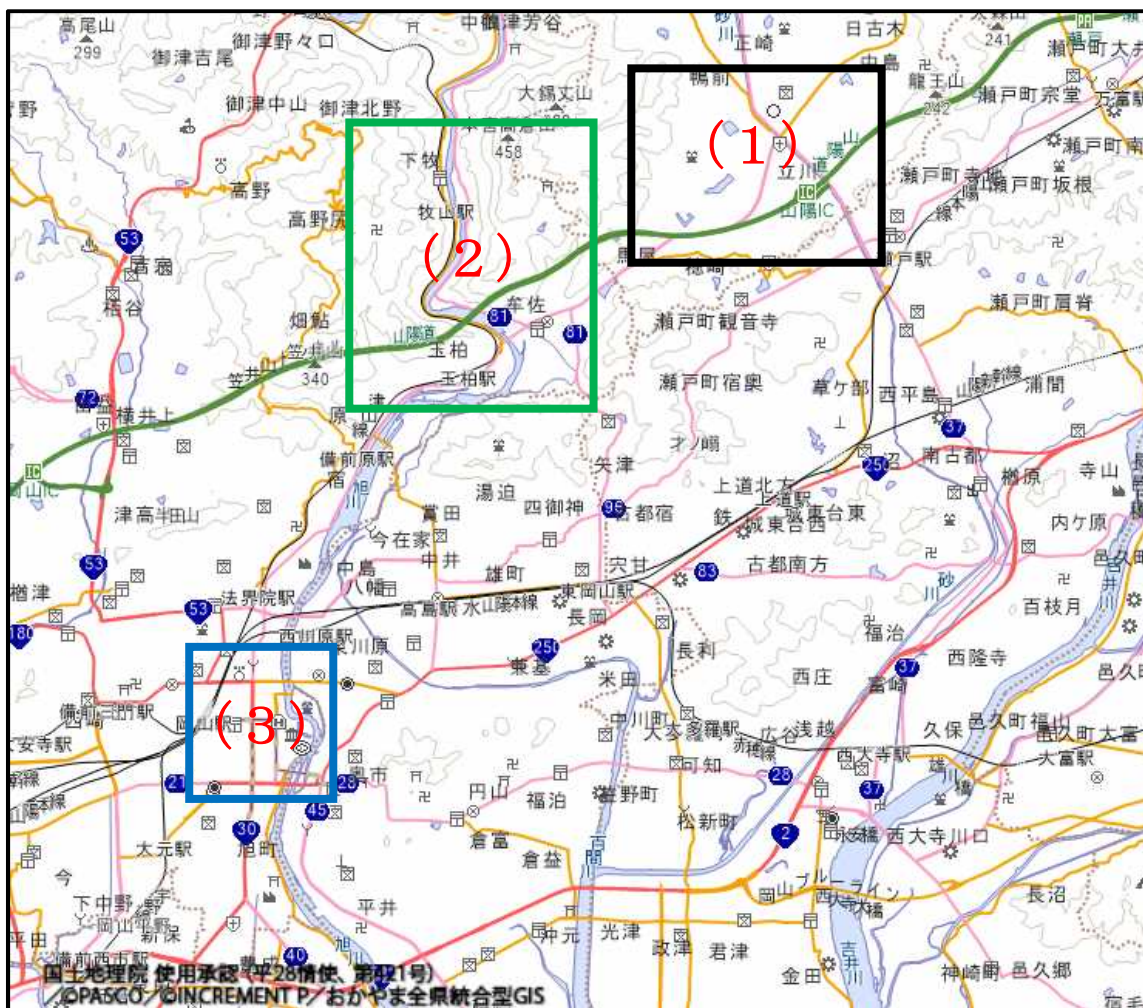


① 申請者	◎岡山市、倉敷市、総社市、赤磐市		② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E	
③ タイトル					
「桃太郎伝説」の生まれたまち おかやま ～古代吉備の遺産が誘う鬼退治の物語～					
④ ストーリーの概要（２００字程度）					
<p>いにしえに吉備と呼ばれた岡山。この地には鬼ノ城と呼ばれる古代山城や巨大墓に立ち並ぶ巨石などの遺跡が現存する。これら遺跡の特徴から吉備津彦命が温羅と呼ばれた鬼を退治する伝説の舞台となった。絶壁にそびえる古代山城は、その名の通り温羅の居城とされ、巨石は命の楯となった。勝利した命は巨大神殿に祀られ、敗れた温羅の首はその側に埋められた。</p> <p>鬼退治伝説は、古代吉備の繁栄と屈服の歴史を背景とし、桃太郎伝説の原型になったとされ、吉備の多様な遺産は今も訪れる人々を神秘的な物語へと誘ってくれる。</p>					
					
【温羅の居城 鬼城山（鬼ノ城）】			【吉備津彦命を祀る 吉備津神社】		
⑤ 担当者連絡先					
担当者氏名	岡山市産業観光局観光コンベンション推進課 芳 原 保				
電 話	(086) 803-1333	FAX	(086) 803-1871		
E-mail	kankou@city.okayama.lg.jp				
住 所	岡山県岡山市北区大供一丁目1-1				

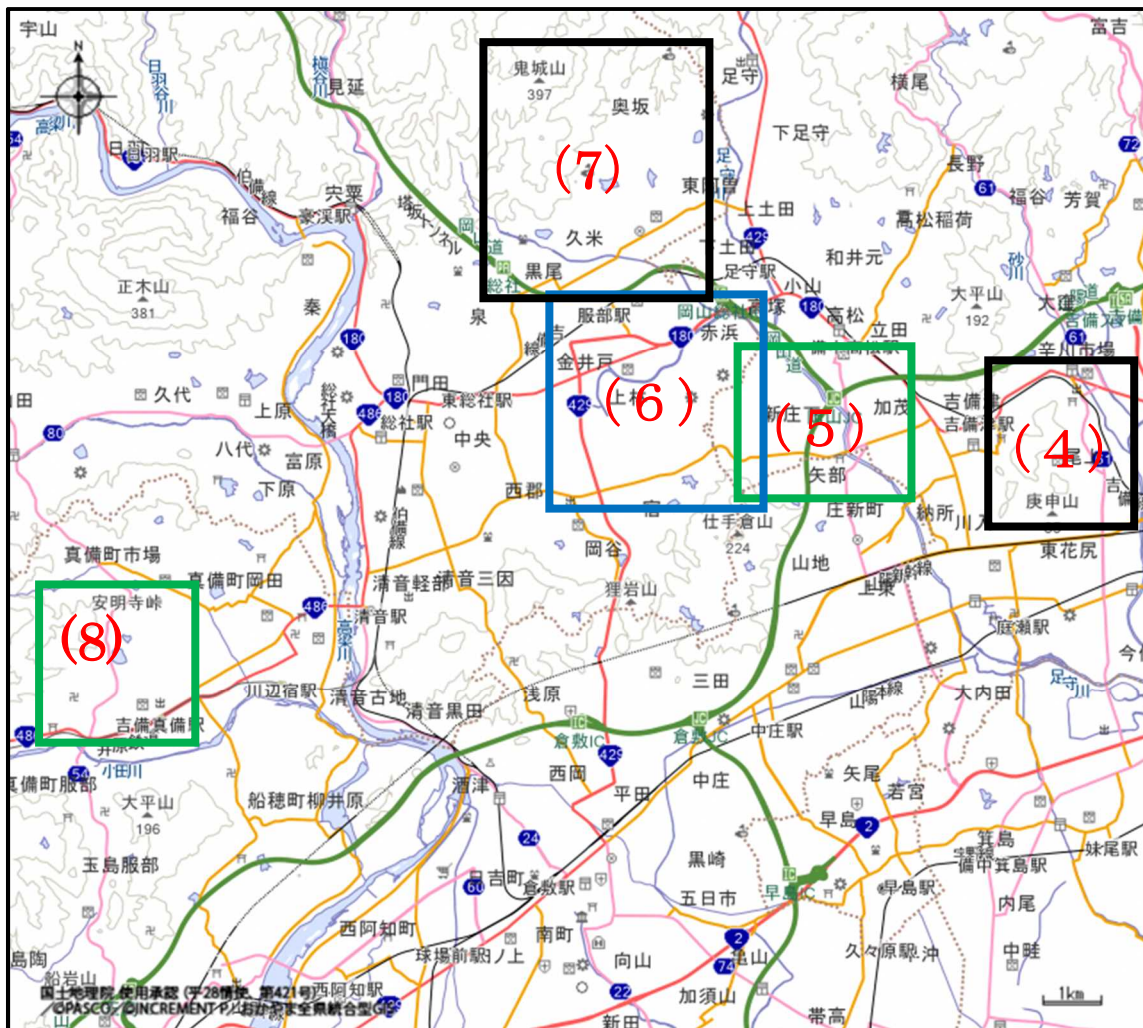
## 市町村の位置図（地図等）



### 1 東部



## 2 西部





構成文化財の位置図（地図等）

※全域にわたる構成文化財

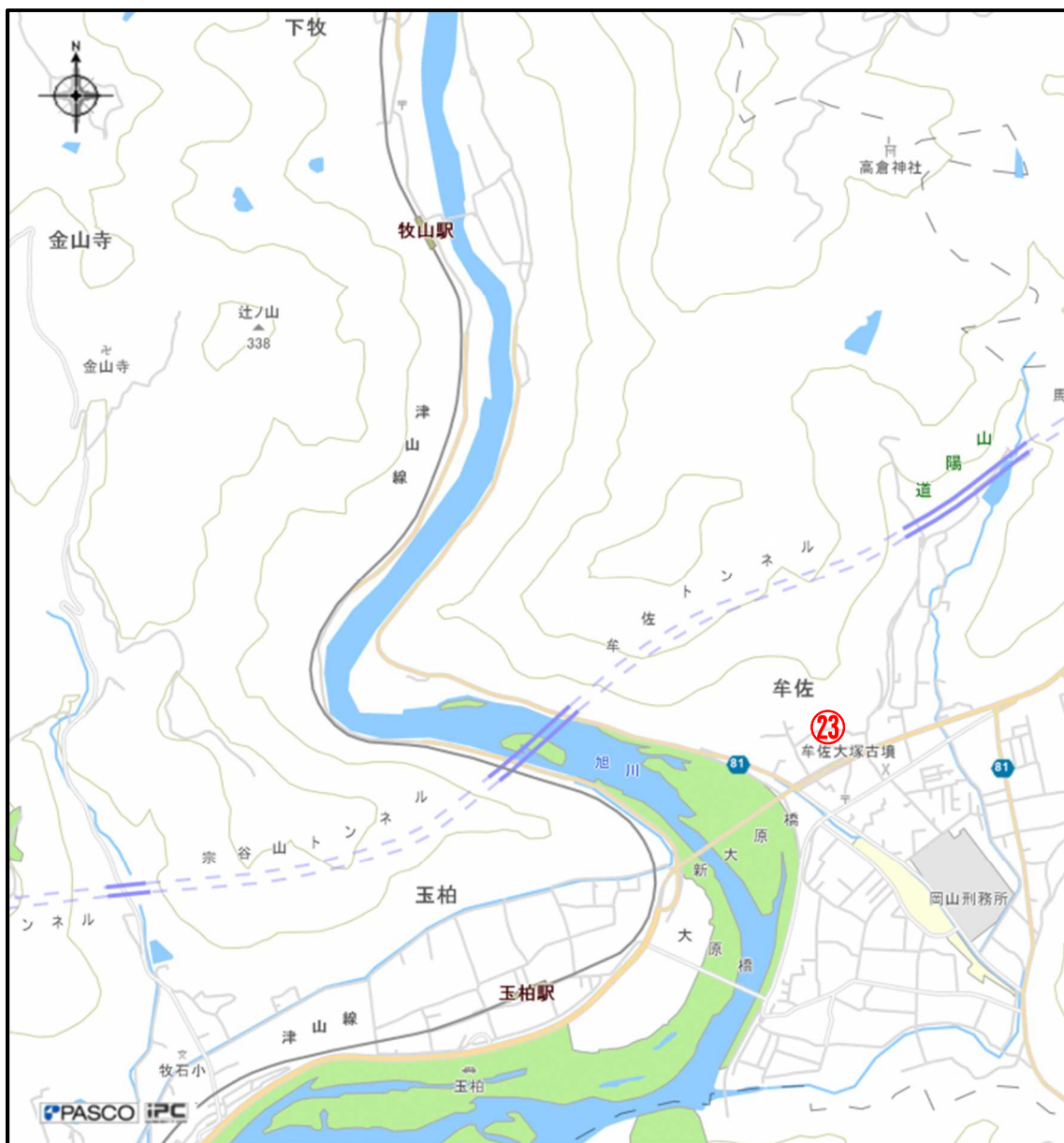
②6	岡山の桃（岡山市、倉敷市、総社市、赤磐市）
②7	きびだんご（岡山市、倉敷市、総社市）

(1) 赤磐市



②1	兩宮山古墳
----	-------

(2) 岡山市



②③

牟佐大塚古墳

(3) 岡山市

## (4) 岡山市



⑤	矢置岩と矢立の神事
⑪	吉備の中山
⑫	吉備津神社
⑬	吉備津神社御釜殿
⑭	鳴釜神事
⑮	吉備津神社境内古図
⑰	吉備津彦神社
㉔	上東遺跡出土の桃の種



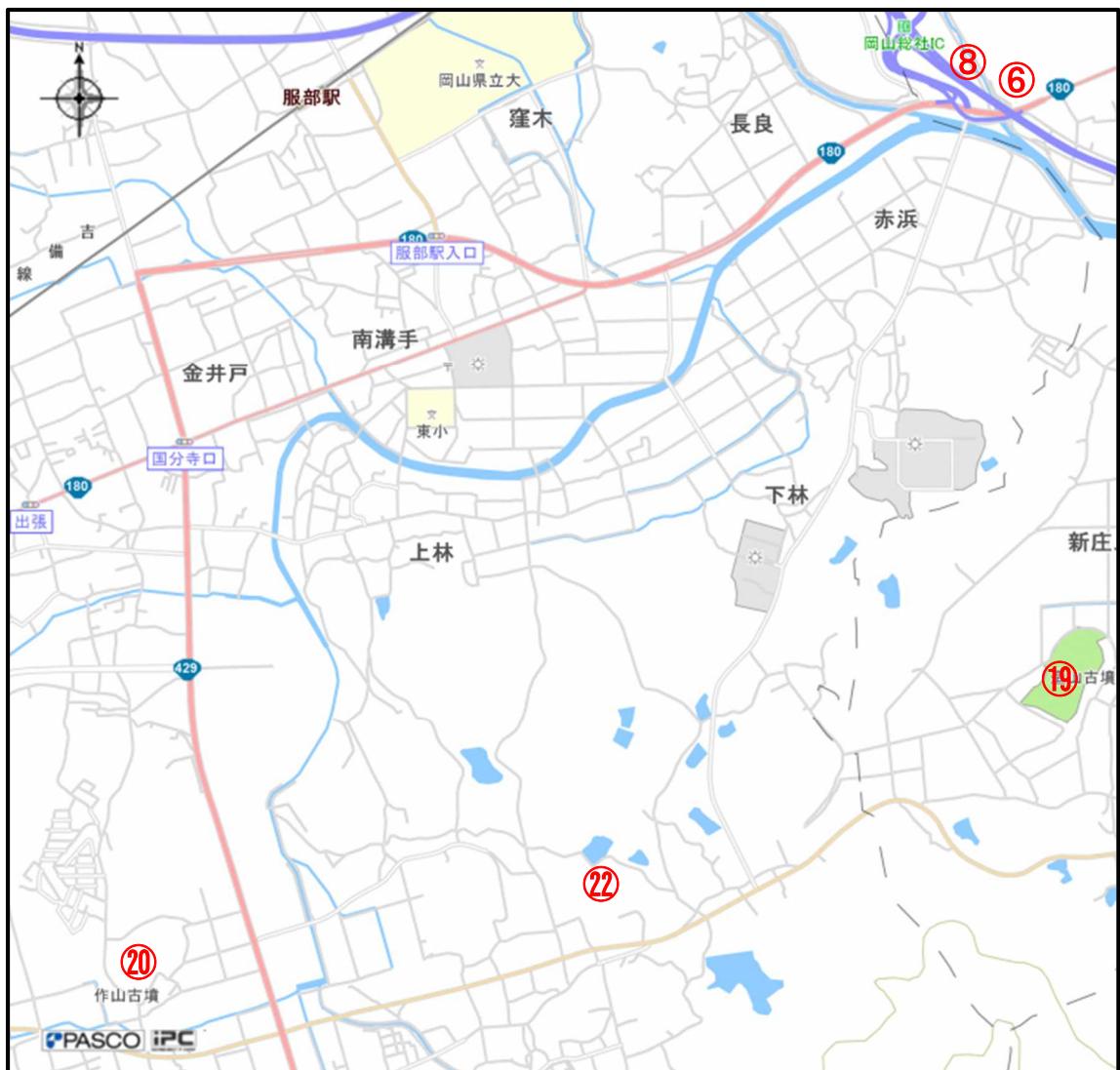
## (5) 岡山市～倉敷市



③	楯築遺跡
④	楯築神社の旋帯文石
⑦	鯉喰神社
⑱	造山古墳 第一、二、三、四、五、六古墳

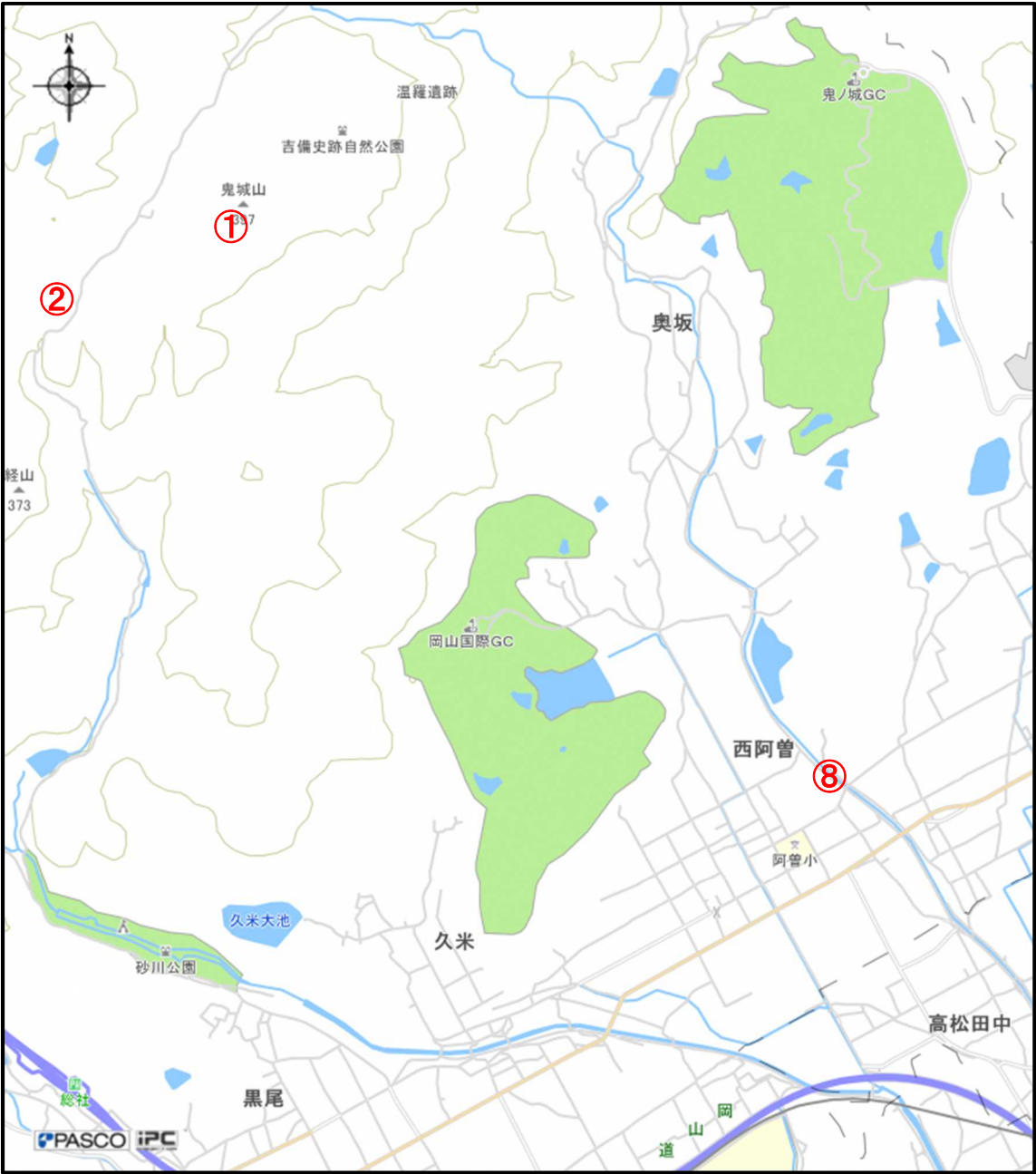


## (6) 岡山市～総社市



⑥	矢喰宮
⑧	血吸川
⑱	造山古墳 第一、二、三、四、五、六古墳
⑳	作山古墳 第一古墳
㉒	こうもり塚古墳

(7) 総社市



①	鬼城山（鬼ノ城）
②	鬼の釜
⑧	血吸川





## ストーリー

## 1 温羅(鬼)退治の伝説

いにしえに「吉備」と呼ばれた岡山の南部にある山には、そそり立つ絶壁の上に石垣が残る城がある。この城は古代山城の一つであり、下部を石垣としその上に版築土塁で高さ約6mの城壁が総延長約28kmにおよび変形七角形に築かれた。この一帯は急峻な山容、岩が露出しそびえ立つ山肌、地形に即応した城壁が一体となって、人を寄せつけず周囲ににらみを利かせているような情景が広がる。この山は「鬼城山(鬼ノ城)」と呼ばれ、伝説の中ではその名の通り温羅と呼ばれる鬼の居城とされた。

鬼城山から南の平野に降りると、弥生時代に造営された首長の墳丘墓が在り、その大きさは同時期では最大級である。また、その頂には木棺を取り囲むように5つの巨石が立てられている。その風景は、まるで古代遺跡のストーンサークルを思わせる不思議な巨石列であり、あたかも戦いのときに使った巨大な楯を連想させるものである。この墳丘墓が在る丘は「楯築遺跡」と呼ばれ、伝説の中では温羅が放った矢を防ぐためのものとされた。

「鬼」と「戦い」をイメージさせるこの地には、まさしく鬼退治「吉備津彦命による温羅退治」の伝説が残る。

その昔、岡山(吉備)平野が吉備の児島に囲まれた内海だったころ、人の身の丈をはるかに超える温羅と呼ばれる鬼は、平野を見下ろす山の上に城を築き、村人を襲い悪事を重ねていた。大和の王から温羅退治の命令を受けた吉備津彦命は、吉備の地に降り立ち、吉備の中山に陣を構え、その西の小高い丘の頂には温羅の矢を防ぐ巨石の楯を築いた。弓の名手であった命は、岩に矢を置き温羅に向かって矢を放つ。温羅も応戦し城から矢を放つが、互いに放った矢は何度も喰い合って落ちていった。しかし、命が力を込めて放った矢は、ついに温羅の左目を射抜く。温羅の目からは血が吹き出し、川のように流れたという。たまらず雉に化けて逃げる温羅を、鷹になった命が追う。温羅は雉から鯉に化けて血の流れる川に逃げたが、命は鷹から鵜となり、鯉を喰い上げ、見事に温羅を退治した。

これら伝説の舞台(上記赤色下線部分)は、それぞれ「鬼城山」、「吉備の中山」、「楯築遺跡」、「矢置岩」、「矢喰宮」、「血吸川」、「鯉喰神社」として、現在も語り継がれている。また、温羅が生け贄をゆでた鬼の釜、命が空を移動するために使った乗り物など、伝説ゆかりの道具もこの地に残っている。

温羅を退治した吉備津彦命は神として祀られた。吉備津神社と吉備津彦神社は、命が陣を構えその墓がある吉備の中山の麓にあり、吉備津神社には、鳥が翼を広げる姿に見える屋根の巨大本殿をはじめ、約400mもある長大な回廊や650年以上前の門などの建造物が現存し、本殿の北東部の良御崎宮では温羅も祀られ、温羅の顔を思わせる鬼面も伝わっている。

過去に災いをもたらしていた温羅であったが、やがてこの



鬼城山の絶壁上に築かれた石垣(総社市)



巨石が立ち並ぶ楯築遺跡(倉敷市)



吉凶を占う鳴釜神事

地の吉凶を告げる使いとなった。命<sup>みこと</sup>がはねた温羅の首は、夜になると不気味なうなり声を上げ、命<sup>みこと</sup>は御釜殿<sup>おかまでん</sup>の釜の下深くに埋めたが、それでもうなり声はおさまらなかった。ある日、命<sup>みこと</sup>の夢に温羅が現れ、自分の妻がこの釜を使って米を炊くようにすれば、自身が命<sup>みこと</sup>の使いとなり釜の音で世の吉凶を占うと告げ、命<sup>みこと</sup>は温羅の言うとおりにしたという。

「ヴォーン、ヴォーン」とまるで鬼がうなっているように聞こえる釜の音。今も御釜殿では、この音で願いが叶うかを占う「鳴釜神事」<sup>なるかましんじ</sup>が執り行われている。また、この吉備津神社では、毎年1月3日、吉備津彦命が温羅との戦いに矢を置いたとされる「矢置岩」<sup>やたて</sup>の前で空に矢を放つ「矢立の神事」も行われ、初詣の参拝客の目を楽しませている。

## 2 伝説の背景にある大和に対抗する吉備の勢力 ―巨大な墓―

古代吉備は、大和に匹敵する勢力を誇っていた。しばしば大和と対抗し屈服したことが『日本書紀』や『古事記』からうかがえ、吉備津彦命と温羅との戦いは、実は大和と吉備の対立を反映したものといわれる。

吉備勢力の強大さを物語るのは、かつての王たちの墓である。温羅伝説にも登場する約1800年前に築かれた楯築遺跡は、同時期の墓としては日本最大級であり、これに続く時期の鯉喰神社一帯の墓も巨大である。また、墓での祭りに使用された円筒形の土器は、この地方で使われ始めたもので、のちに古墳で行われた祭りの道具である埴輪の原型となった。さらに、5世紀代の造山古墳・作山古墳・両宮山古墳は、近畿の天皇陵古墳に匹敵する規模を誇り、小高い山と見間違ふほどである。自由に登ることができるため、その巨大さを体感でき、あたかも祭壇のような段造りの様子や水濠で囲まれた形も見ることができる。

今も残る巨大な墓は、古くから文化が花開き、強大な勢力が存在していたこの地の繁栄を感じさせてくれる。



国内第4位の巨大古墳 造山古墳（岡山市）



水で取り囲まれた両宮山古墳（赤磐市）

## 3 桃太郎の原型

古くから語り継がれてきた吉備津彦命による温羅退治の伝説は後世に引き継がれ、昔話の桃太郎による鬼退治の原型となったとされる。この昔話は、川を流れてきた大きな桃から生まれた桃太郎が、村を荒らし悪さをする鬼と戦うために、道中で家来となった犬、猿、雉とともに鬼を退治する物語である。

桃太郎の名の由来となった桃は、古来より魔よけの道具として使われた。吉備の地は、晴天の多い温暖な気候に恵まれ、古くから桃が栽培されてきた。桃太郎が犬、猿、雉を従えるために与えた「きびだんご」の原料の黍<sup>きび</sup>は、吉備の地名に由来するともいわれ、今では岡山土産の代表となっている。また、桃太郎の家来の犬、猿、雉は、「犬飼」の名前などで、今もこの地に残っている。このような岡山の気候、風土、歴史と温羅退治の伝説とが密接に結びつき、桃太郎はこの地で生まれた。

遠く瀬戸内海まで見渡せる鬼城山の絶壁から眼下を望めば、古くから護り伝えられた巨大古墳などの多様な遺産と、ほかでは見ることのできない吉備津彦命と温羅の戦いの世界が広がり、吉備の地を訪れる人々を神秘的な物語へと誘<sup>いざな</sup>ってくれる。

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
①	きのじょうさん 鬼城山 (鬼ノ城)	国史跡	温羅伝説の中では、温羅の居城と伝えられているが、実は城内面積約 30 ha に及ぶ巨大な古代山城。門や角楼などが復元されている。	総社市
②	おに かま 鬼の釜	市重文 (工芸品)	鬼ノ城近くにあり、温羅が生け贄をゆでた釜と伝えられている。実際には、鎌倉時代の僧重源が衆生施浴のため鋳造させたものとされている。	総社市
③	たてつきいせき 楯築遺跡	国史跡	弥生時代後期に築かれた墳丘墓で、その大きさは全国最大級である。頂に立つ 5 個の巨石は、温羅伝説の中で吉備津彦命が温羅との戦いで築いた楯の跡と伝えられている。	倉敷市
④	たてつきじんじゃ せんたいもんせき 楯築神社の旋帯文石	国重文 (考古資料)	吉備津彦命が温羅との戦いに使った空飛ぶ乗り物とも伝えられている。楯築遺跡の上に鎮座する楯築神社の御神体で、「弧帯文石」とも呼ばれる。全面に帯状の弧を描く文様が刻まれ、正面には人の顔が造り出されている。弥生時代の石造彫刻として最も優れたものである。	倉敷市
⑤	やおきいわ やたて しんじ 矢置岩と矢立の神事	未指定	吉備津彦命が温羅との戦いの際に吉備津彦命が矢を置いたとされる岩。現在毎年 1 月 3 日に矢立の神事が行われ、1 年の泰平が祈願されている。	岡山市
⑥	やぐいのみや 矢喰宮	未指定	温羅伝説の中で、吉備津彦命と温羅の射た矢が空中で衝突し、落下した場所に祀られた神社。神社の境内には温羅が投げたと伝えられる巨石も残されている。	岡山市
⑦	こいくいじんじゃ 鯉喰神社 (鯉喰神社遺跡)	未指定	鯉に化けて逃げる温羅を、吉備津彦命が鵜になり捕まえた場所に祀られた神社。実は楯築遺跡と同じく弥生時代末期の墳丘墓で、弧帯文石の類品や特殊器台が見つかった。	倉敷市
⑧	ちすいがわ 血吸川	未指定	鬼城山を源流とする川で、吉備津彦命との戦いで傷ついた温羅の血が流れて真っ赤になったと伝えられ、下流には「赤浜」の地名も残る。名前の由来は、鉄分が含まれた川の水が赤かったためと言われ、この地域で製鉄が盛んであったことをうかがわせる。	岡山市 総社市
⑨	き びつ、ぐうかんじんちよう 吉備津宮勸進帳	未指定	1583 年に成立した吉備津神社の記録で、吉備津彦命による鬼退治の記載がある。温羅伝説は 600 年以上前には成立していたとされ、年号がはっきりした記録として最も古いのがこの資料である。	岡山市



番号	文化財の名称 (※ 1)	指定等の状況 (※ 2)	ストーリーの中の位置づけ (※ 3)	文化財の所在地 (※ 4)
⑩	びつちゅうのくにおおき びつのみやうつき 備 中国大 吉備津宮略記	未指定	江戸時代後期に成立した吉備津神社の由来が記されている文書で、「温羅」の名が登場するとともに、温羅は後に吉備津彦命の家臣となったと記されている。	岡山市
⑪	き び なかやま 吉備の中山	未指定	『古今和歌集』や『枕草子』など古くからその名が知られた名山。温羅との戦いで吉備津彦命が布陣したと伝承されている。山裾には吉備津神社や吉備津彦神社が鎮座し、山頂南側には吉備津彦命の墓とされる全長約 105m の中山茶臼山古墳がある。	岡山市
⑫	き び つ じん じゃ 吉備津神社	国宝（本殿・拝殿） 国重文（北随神門・南随神門ほか） 県重文（回廊ほか）	吉備津彦命を祀る神社で、鳥が翼を広げたように見える、比翼入母屋造の秀麗な本殿は、拝殿とともに国宝に指定されている。境内には、命が温羅との戦いの際に矢を置いたと伝えられる矢置岩、釜の下に鬼の首が埋められたと伝えられている御釜殿など、温羅伝説ゆかりの場所も多い。	岡山市
⑬	吉備津神社御釜殿 お か ま で ん	国重文	温羅の首を釜の下に埋めたと伝えられ、釜の鳴動で吉凶を占うという鳴釜神事で有名な神殿。現在の建物は、1612 年の再建。	岡山市
⑭	なる か ま し ん じ 鳴釜神事	未指定	吉備津神社御釜殿の釜からでる音により、吉凶を占う神事。室町時代末期には、都に聞こえるほどの神事であった。温羅伝説では、釜の下に鬼の首が埋められたと伝えられている。	岡山市
⑮	き び つ じん じゃ け い だ い こ ず 吉備津神社境内古図	未指定	鬼城山、楯築山、鯉喰宮、血吸川、矢喰合宮といった温羅伝説にまつわる場所も描かれた吉備津神社の境内図。吉備津神社が伝説ゆかりの地を重視していたことが分かる。	岡山市
⑯	き び つ じん じゃ お に め ん 吉備津神社の鬼面	未指定	額に差し込まれた角は失われているが、丸い目や出っ歯、大きな鼻はどこかユーモラスであり、温羅伝説に登場する鬼の温羅の表情を想像させる。16 世紀ごろの作と考えられる。	岡山市
⑰	き び つ ひ こ じん じゃ 吉備津彦神社	県重文（本殿ほか）ほか	吉備津彦命を祀る神社で、吉備国が備前・備中・備後に分割された際に備前一宮として建てられたとされる。境内の温羅神社に温羅も祀られている。	岡山市
⑱	とく し ゅ き だ い 特殊器台	国重文 (考古資料)	吉備文化の独自性を象徴する考古資料で、弥生時代後期に吉備で葬送の祭りに使用された土器。温羅伝説ゆかりの楯築遺跡や鯉喰神社でも出土している。また、奈良県の箸墓古墳でも出土するほか、円筒埴輪の祖型ともされる。	岡山市

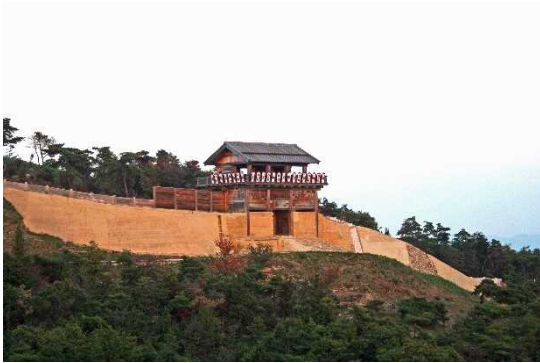
番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
①9	つくりやまこふん 造山古墳 第一、二、三、四、五、 六古墳	国史跡	吉備勢力の強大さを伝える巨大前方後円墳。5世紀前半に造営され、規模は全長約 350m と全国第4位で、吉備に巨大勢力があったことを伝える。周辺には朝鮮半島と関係の深い遺物が出土した第一古墳(榊山古墳)や、直弧文と呼ばれる精緻な文様で飾られた石障のある第五古墳(千足古墳)など、6つの陪塚がある。鬼ノ城からも見下ろすことができる。	岡山市
②0	つくりやまこふん 作山古墳 第一古墳	国史跡	吉備勢力の強大さを伝える巨大前方後円墳。5世紀中頃に造営された全長約 286m の巨大前方後円墳で、全国第10位の大きさである。鬼ノ城からも見下ろすことができる。	総社市
②1	りょうぐうざんこふん 両宮山古墳	国史跡	吉備勢力の強大さを伝える巨大前方後円墳。5世紀後半に築かれ、墳長約 206m で、吉備では造山古墳、作山古墳に次ぐ規模となっている。吉備では珍しく水濠に囲まれている。	赤磐市
②2	づかこふん こうもり塚古墳	国史跡	吉備三巨石墳の一つ。全長約 100m の前方後円墳で、横穴式石室は全長約 19.4m で吉備最大の石室を持ち、この地方を治めた勢力の巨大さを伝えてくれる。	総社市
②3	むき おおつかこふん 牟佐大塚古墳	国史跡	吉備三巨石墳の一つ。6世紀末ごろに造られた大形の円墳で、横穴式石室も全長 18.0m と巨大である。吉備津彦命の子孫とされる上道氏の墓と考えられている。	岡山市
②4	や た おおつかこふん 箭田大塚古墳	国史跡	吉備三巨石墳の一つ。直径約 50m の円墳で、全長 19.1m の巨大な横穴式石室をもつ。吉備津彦命の弟の子孫とされる下道氏の墓と考えられている。	倉敷市
②5	じょうとういせきしゅつど もも たね 上東遺跡出土の桃の種	未指定	温羅伝説ゆかりの地に近接する、弥生時代の上東遺跡から出土した9,606個の桃の種。一つの遺構から出土した数では全国的にも群を抜いて多く、古くから岡山と桃のつながりが深かったことをうかがわせる。	岡山市
②6	おかやま もも 岡山の桃	未指定	古くから鬼は桃を恐れると言われており、桃太郎とのつながりも想像させる。岡山は、現在も日本有数の桃の産地で、桃の栽培に適した気候・風土の中で桃太郎伝説が育まれてきた。	岡山市 倉敷市 総社市 赤磐市
②7	きびだんご	未指定	桃太郎伝説の地・岡山を代表する銘菓。桃太郎が鬼退治の際に犬・猿・雉に与えた黍団子をモチーフとし、江戸時代には吉備津神社の門前で売られていた。「吉備」の地名も、「黍」に由来するとの説がある。	岡山市 倉敷市 総社市

- (※1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。
- (※2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること（例：国史跡、国重文（工芸品）、県史跡、県有形、市無形等）。
- (※3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること（単に文化財の説明にならないように注意すること）。
- (※4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること（複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること）。



## 構成文化財の写真一覧

① 鬼城山（鬼ノ城）



② 鬼の釜



③ 楯築遺跡



④ 楯築神社の旋帯文石



⑤ 矢置岩と矢立の神事

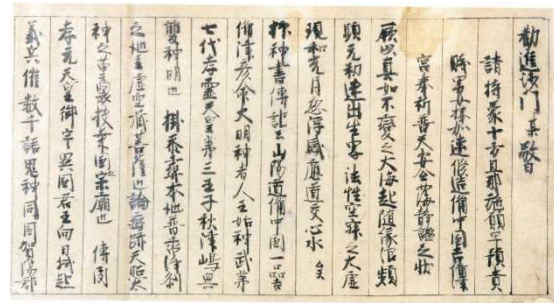




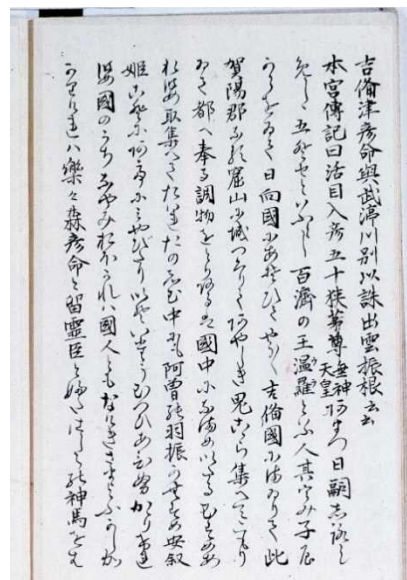
⑥ 矢喰宮



⑨ 吉備津宮勸進帳



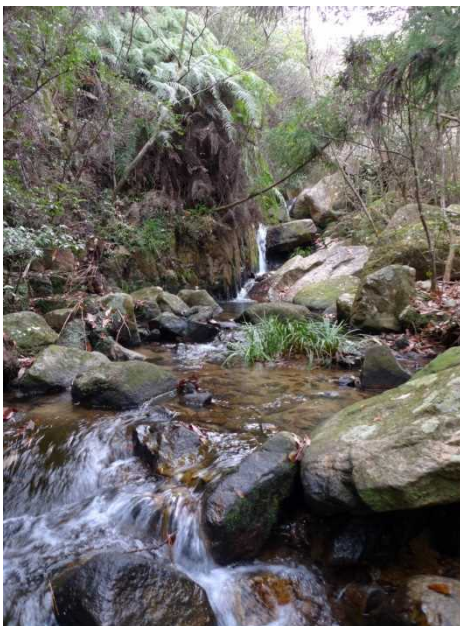
⑩ 備中国大吉備津宮略記



⑦ 鯉喰神社



⑧ 血吸川



⑪ 吉備の中山





⑫ 吉備津神社



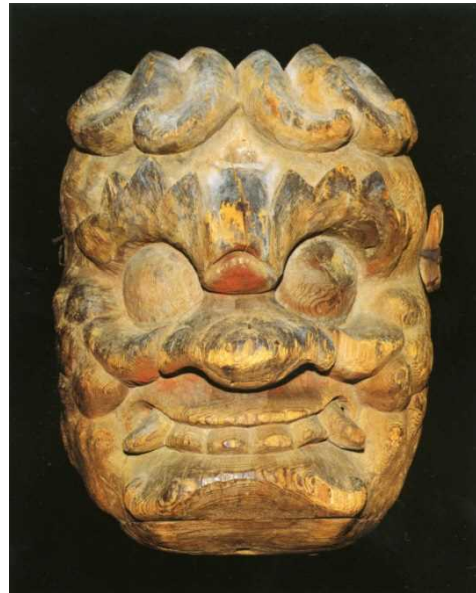
⑮ 吉備津神社境内古図



⑬ 吉備津神社御釜殿



⑯ 吉備津神社の鬼面



⑭ 鳴釜神事



⑰ 吉備津彦神社





⑱ 特殊器台



⑳ 作山古墳 第一古墳



㉑ 両宮山古墳



㉒ 造山古墳

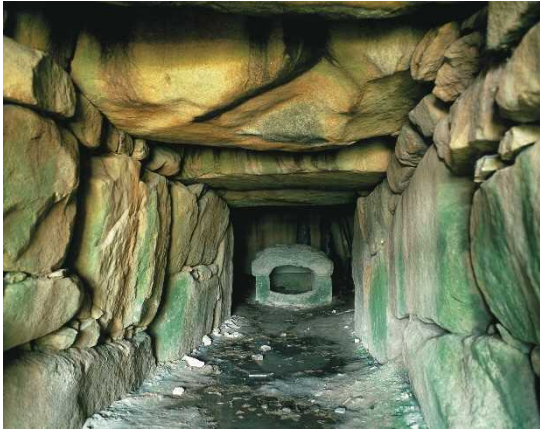
第一、二、三、四、五、六古墳



㉓ こうもり塚古墳



②③ 牟佐大塚古墳



②⑥ 岡山の桃



②④ 箭田大塚古墳



②⑦ きびだんご



②⑤ 上東遺跡出土の桃の種



## 日本遺産を通じた地域活性化計画

## (1) 将来像 (ビジョン)

岡山市では、平成28年3月に「岡山市第六次総合計画 長期構想」を策定し、平成29年3月には平成28年から平成32年までの実施計画となる「前期中期計画」の策定を行った。

長期構想、前期中期計画の実現に向け、平成29年3月、実効性ある具体的な施策の方向性等を定めた「岡山市観光振興アクションプラン」を策定。このアクションプランでは、戦略6「『桃太郎のまち岡山』をキーワードにした魅力発信と観光素材づくり」において、桃太郎伝説の舞台となっている吉備路の日本遺産への登録を目指すとともに、桃太郎を体感できる観光素材の充実を図りながら、「桃太郎のまち 岡山」を創造・発信していくこととしている。

また、倉敷市、総社市、赤磐市においても、それぞれの総合計画に位置付けており、倉敷市では、地域固有の文化資源を掘り起こし、産業振興、観光振興につなげるため、まちづくり指標を定めている。総社市では、古代吉備文化と豊かな自然との融合を目指したまちづくりを推進するため、日本遺産登録を目指すこととしている。赤磐市では、広域連携により市域をまたがって周遊できる観光ルートの形成を進めるとともに、両宮山古墳など文化財の保存・活用により次の世代に歴史を継承することとしている。

これらの計画の実現に向け、地域に人を呼び込み、活性化を促進するため、目指すべき将来の地域の姿を次のとおり定める。

## [目指すべき将来の姿]

## ①国内外の観光客が訪れ交流の生まれる地域へ

- ・桃太郎伝説を通じて、国内外から観光客が訪れ、地域住民、案内ガイド、商店・飲食店の従事者等との交流が生まれ、地域が賑やかになるとともに、交流によって観光客の受入環境が充実したものとなっている。
- ・観光客が桃太郎伝説の物語を自然豊かな現地で体感し、その歴史や文化に直接触れることで、観光客から高い評価を得られ、その結果、観光客自らが情報発信を行うことにより、さらに交流人口が拡大している。

## ②地域住民が誇りをもち、生き生きと地域の魅力を発信する地域へ

- ・地域住民や関係者が、守り、受け継いできた地域の資源（自然、環境、風土、文化、歴史など）が、観光客に評価されることにより、地域住民の地域への愛着や誇りが育まれ、地域の魅力を生き生きと発信している。

## ③自ら稼ぐ地域へ

- ・現地の物語を伝える通訳ガイドがそれぞれの外国人観光客に合わせた案内をするなど、多様化する観光客のニーズにきめ細かく対応している。
- ・有償とすることで質の高い観光商品として提供され、その結果観光客の満足度が高まるなど、地域に好循環が生まれている。

## (2) 地域活性化のための取組の概要

上記(1)で掲げた将来像の実現に向け、日本遺産の魅力を高め積極的に発信するとともに、人材の育成や日本遺産を体感できる受入体制を整えるため、下記取組を推進する。

## (1) 「桃太郎伝説の生まれたまち」としての魅力を国内外に発信する

Webサイトやプロモーション動画等により、構成文化財や桃太郎伝説の魅力をわかりやすく国内外に発信していく。車での来訪が可能な関西圏での認知度を高め誘客するため、JR駅等を活用し重点的にPRを行う。また、作成したパンフレットは、商談会や観光展での旅行会社等への訴求資料として活用し、民間による誘客、旅行商品の造成を促進する。

海外においては、岡山空港にLCCが就航し多くの旅行者が訪れている台湾や、地域の歴史・文化に興味をもつ欧州からの旅行者を呼び込むため、多言語化したWebサイトや動画により情報発信を行うとともに、旅行雑誌等への掲載などにより積極的にPRを行う。

## (2) 日本遺産の魅力を体感できる観光コンテンツを造成する

来訪者のニーズをとらえ、誘客するターゲットを選定するため、旅行者に対する調査・分析を行う。また、調査結果を踏まえ、平成31年度より桃太郎伝説の魅力に触れることのできる国内及び訪日旅行者向け周遊ツアー等の旅行商品を造成し、点在する構成文化財を面として展開していくことで、来訪者の滞在時間の増加を見込む。催行に当たっては、地域のガイド（一部有償ガイドを見込む）による案内により、構成文化財の魅力を地域住民から伝えとともに、鬼ノ城や吉備の中山のトレッキング、古墳散策ツアー、血吸川の沢登り、サイクリング、特殊器台づくり体験などここでしかできない自然や構成文化財を活かした体験を提供し、来訪者の満足度を高めていく。

造成した旅行商品については、東京、大阪、福岡等首都圏で行う旅行会社との商談会で売り込みを行うとともに、海外向け旅行商品については、ヨーロッパやアジアで行う商談会や観光展で売り込んでいく。

## (3) 日本遺産に親しみ楽しむことのできる環境づくりを進める

来訪者の受入窓口となる日本遺産センターを整備することにより、構成文化財を桃太郎伝説のストーリーに照らして案内するなど、現地の受入環境を整える。また、統一看板の整備により現地で日本遺産のストーリーが体感できる環境整備を行い、来訪者の満足度の向上を図る。さらには、高速道路の料金割引社会実験により、岡山連携中枢都市圏内の人・モノの交流促進や、構成文化財が位置する国道180号線等の渋滞緩和を促すとともに、吉備津神社の最寄駅となるJR吉備津駅などを有するJR吉備線（桃太郎線）のLRT（Light Rail Transit）化の検討を行い、鉄道の利用環境の改善を目指す。

## (4) 地域住民の理解、認識を深め地域への愛着や誇りを育む

桃太郎伝説の起源となった「吉備津彦命の温羅退治」や、伝説の背景となった古代吉備の繁栄などについて、小学校や市民向け講座の実施やシンポジウムの開催等により、地域住民の理解・認識を深め、郷土への愛着や誇りを育む取組を推進する。

## (5) 日本遺産の魅力を伝える人材を育成する

各市で活躍するボランティアガイド、観光や歴史をテーマに活動するNPO法人、地域団体等と協力して各種事業を進めるとともに、来訪者に日本遺産の魅力を効果的に伝えられるよう、構成文化財をサイクリングで周遊する多言語対応可能な有償ガイドの育成等自ら稼ぐ担い手づくりに向けた取組を推進する。



(3) 自立的・継続的な取組			
<p><b>〔運営資金獲得方法〕</b> この日本遺産の所在地は互いに隣接する4市であり、平素から広域連携で各種共同事業を実施しており、日本遺産魅力発信推進事業が終了してもその枠組みを引き続き活用し、4市共同による事業を継続して行う。 日本遺産魅力発信推進事業によるニーズ調査とその調査結果に基づく旅行商品の販売、体験メニューの充実等により、徐々に(4)に掲げる団体の収益事業の割合を高め、将来的には自立した団体として運営できるよう誘導する。また、乗降客数1日平均13万4千人(平成28年度)のJR岡山駅の拠点性を活かし、当駅を起点とした着地型ツアーを造成するなど収益が得られる仕組みを構築していく。</p> <p><b>〔地域の団体、個人の巻き込み方法〕</b> 地域のボランティアガイド、歴史を顕彰する地域団体、NPO法人等との連携により、各種取組を推進していく。構成文化財が広域にわたっているため、それぞれの地域で日本遺産の共通認識が持てるよう、人材の育成、相互交流を進める。</p>			
(4) 実施体制			
<p><b>〔構成団体〕</b> 協議会の名称：日本遺産「桃太郎伝説の生まれたまち おかやま」推進協議会(仮称) 構成団体：岡山県観光課・文化財課、岡山市観光コンベンション推進課・文化財課、倉敷市日本遺産推進室、総社市商工観光課・文化課、赤磐市商工観光課・社会教育課、(公社)おかやま観光コンベンション協会、(公社)倉敷観光コンベンションビューロー、総社市観光協会、赤磐市観光協会、関係NPO、地域団体、観光関連民間事業者等</p> <p><b>〔運営方法〕</b> 将来像を実現するための取組を体系的に実施するため、協議会の全体リーダーとして岡山市が事務局を担い運営する。また、行政、観光団体等に加え、地域の活性化に精力的に取り組んでいる活動実績のあるNPO法人や地域団体等と協働し、事業を推進していく。 協議会を円滑に運営するため、プロモーションや収益事業などのワーキンググループ(各グループリーダーは観光関連民間事業者、地域の活性化に取り組むNPO法人を想定)を設置し、全体リーダーと各ワーキンググループリーダーで毎月1回定例連携会議を開催。この会議では、情報を共有し課題解決に向けて議論することはもちろん、協議会の自立化に向けた運営等について議論する場とする。</p> <p><b>〔将来の見通し〕</b> 上記(3)で記載した運営資金の獲得や民間事業者、観光協会などの団体、NPO法人など多様な主体の参画により自立した運営に向けた体制を構築していく。</p>			
(5) 地域活性化計画における目標と期待される効果		定量的評価：	別紙①のとおり
期待される効果：	桃太郎伝説「吉備津彦命の温羅退治」とその背景にある古代吉備に対する認知度の向上を図るとともに積極的な情報発信を行うことにより、これまで以上にこれらの文化遺産に対する興味や関心を深めることができ、観光客の興味や関心を喚起することができる。また、地域住民の郷土への愛着や誇りを育むことにより、地域の文化遺産の保存・継承の機運の高まりや取組も期待できる。 さらに、周辺の環境整備や地域ボランティアなどによるおもてなしにより、観光客の満足度が向上し、リピーターの拡大、新規顧客の獲得、地域の活性化が期待できる。		
(6) 日本遺産魅力発信推進事業		別紙②のとおり	
補助金額：	平成30年度：	45,000千円	平成31年度：31,500千円 平成32年度：16,000千円
(7) その他事業		別紙③のとおり	



## （５）地域活性化計画における目標と期待される効果

設定目標Ⅰ：	日本遺産を活用した集客・活性化		
計画評価指標：	観光客入込み数（具体的な指標は次のとおり）		
具体的な指標：	吉備路エリアの観光入込客数		
目標値：	平成 28 年	1,552 千人	⇒ 平成 35 年 1,909 千人
設定根拠：	平成28年の入込数が前年比8.4%減少に対し、毎年3%増加として設定。		
設定目標Ⅱ：	日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化		
計画評価指標：	地域の文化に誇りを感じる住民の割合（具体的な指標は次のとおり）		
具体的な指標：	構成する4市の地域に対する誇り・愛着を感じる住民の割合		
目標値：	平成 28 年度	35.2 %	⇒ 平成 35 年度 40.7 %
設定根拠：	平成28年度の実績値35.2%に対し、各市の総合計画への目標値等を参考に5.5%増加として設定。		
設定目標Ⅲ：	日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立		
計画評価指標：	日本遺産関連で開発された商品・サービス数（具体的な指標は次のとおり）		
具体的な指標：	日本遺産に関連して開発する旅行商品数		
目標値：	平成 29 年度	0 商品	⇒ 平成 35 年度 10 商品
設定根拠：	日本遺産を巡る旅行商品を、平成31年度以降毎年2商品（周遊型・着地型それぞれ1商品）ずつ造成するものとして設定。		
設定目標Ⅳ：	その他		
計画評価指標：	その他	（具体的な指標は次のとおり）	
具体的な指標：	日本遺産ガイドの活動者数		
目標値：	平成 29 年度	0 人	⇒ 平成 35 年度 100 人
設定根拠：	150人のガイドを3年かけて育成し、その後70%が活動に従事するものとして設定。		

※黄色で着色したセルの内容は変更しないでください。

※目標Ⅰ～Ⅳを複数設定する場合は、設定目標～設定根拠までをコピーして欄を増やしてください。

## (6) 日本遺産魅力発信推進事業

事業①:	プロモーション映像の作成 (多言語)		
事業区分:	情報発信	事業期間:	平成 30 年度 ~ 平成 30 年度
補助金額:	平成30年度: 12,000千円	平成31年度:	—
(積算)	映像作成12,000千円	—	—
事業概要:	日本遺産の魅力をわかりやすく効果的に伝えるプロモーション映像を作成する。時間の異なる3パターン(3分、1分、15秒など)の映像を作成し、Webサイトに掲載するとともに、動画共有サイトで配信する。また、作成した映像はJRのビジョンで放映し、認知度の向上を図る。さらに、海外へのPRのため、国・地域(台湾、中国、韓国、欧州など)の嗜好に合わせた映像を作成する。		
評価指標区分:	コンテンツダウンロード数(掲載HPや動画共有サイトでの再生回数等)	(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標:	掲載Webサイト及び動画共有サイトでの再生回数		
目標値:	平成 29 年度	0 回	⇒ 平成 35 年度 6,500 回
事業②:	Webサイトの作成 (多言語)		
事業区分:	情報発信	事業期間:	平成 30 年度 ~ 平成 30 年度
補助金額:	平成30年度: 5,000千円	平成31年度:	—
(積算)	委託料5,000千円	—	—
事業概要:	日本遺産のストーリー、構成文化財、見どころ等を取りまとめたWebサイトを多言語(日本語、英語、中国語(繁体、簡体)、韓国語など)で作成する。また、スマートフォンに対応したWebサイトの作成も行う。		
評価指標区分:	ホームページ閲覧数(PV数)	(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標:	ホームページ閲覧数(PV数)		
目標値:	平成 29 年度	0 回	⇒ 平成 35 年度 50,000 回
事業③:	広報プロモーション(国内)		
事業区分:	情報発信	事業期間:	平成 30 年度 ~ 平成 31 年度
補助金額:	平成30年度: 5,000千円	平成31年度: 5,000千円	平成32年度: —
(積算)	[プロモーション] 20千円×30駅×5期(35日) [パンフ] 日・英各5,000部 @50×5,000部×2種, デザイン1,000千円 [ポスター] 日英表記 500部 @400×500部, デザイン300千円	1,600千円×3期(21日)	—
事業概要:	[平成30年度] 車での来訪が可能な関西圏へのPRを行うため、JR西日本管内主要駅(大阪駅、京都駅、天王寺駅、三ノ宮駅、京橋駅等30駅)でポスターの掲出を行う。そのため、日本遺産認定の周知のためポスターを作成するとともに、国内旅行会社や海外の観光展等で現地の旅行会社へ配付するためのパンフレットを多言語(日本語・英語)にて作成し、Webサイトにも掲載する。 [平成31年度] 平成30年度に作成したプロモーション映像を、JR西日本管内主要駅(大阪駅、新大阪駅、京都駅、三ノ宮駅)ビジョン及びJR車両ビジョンで放映する。		
評価指標区分:	ホームページ閲覧数(PV数)	(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標:	ホームページ閲覧数(PV数)		
目標値:	平成 29 年度	0 回	⇒ 平成 35 年度 50,000 回
事業④:	広報プロモーション(海外)		
事業区分:	情報発信	事業期間:	平成 31 年度 ~ 平成 32 年度
補助金額:	平成30年度: —	平成31年度: 3,500千円	平成32年度: 7,500千円
(積算)	—	[プロモーション] 500千円×旅行雑誌4回(台湾) [パンフ] 4か国語各2,500部 @60×2,500部×4種, 翻訳200千×4種	[プロモーション] 500千円×旅行雑誌各5回(3か国)
事業概要:	[平成31年度] 週6便のLCC就航があり新たな旅行先を求めている台湾人旅行者の誘客のため、旅行雑誌等への広告掲載を行う。また、前年度に作成したパンフレットについて、海外の観光展等で現地の旅行会社へ配付するため中国語(繁体、簡体)、韓国語、フランス語で作成し、Webサイトにも掲載する。 [平成32年度] ニーズ調査の結果に基づき日本の歴史・文化に興味ある国(3か国程度)に対し、旅行雑誌等への広告掲載を実施する。		
評価指標区分:	その他	(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標:	吉備路エリア観光客入込数		
目標値:	平成 28 年	1,552 千人	⇒ 平成 35 年 1,909 千人

事業⑤： ニーズ調査の実施						
事業区分：	調査研究	事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 30 年度			
補助金額：	平成30年度： 9,000千円	平成31年度：	—	平成32年度：	—	
(積算)	委託調査9,000千円		—		—	
事業概要：	ツアー造成、PRコンテンツづくり、Webサイトの充実等に活かすため、国内旅行者及び訪日外国人旅行者へのニーズ調査を行うとともに、既存の統計調査も活用し、ターゲットの選定や興味、嗜好を分析する。					
評価指標区分：	嗜好性調査を踏まえた商品開発数			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	日本遺産に関連して開発する旅行商品数					
目標値：	平成 29 年度	0 商品	⇒	平成 35 年度	10 商品	
事業⑥： 旅行商品の造成に向けたモニターツアー等の実施						
事業区分：	普及啓発		事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 32 年度		
補助金額：	平成30年度：	—	平成31年度：	3,000千円	平成32年度：	5,000千円
(積算)	—		[モニターツアー] 日本人700千円 外国人2,300千円		[ファムツアー] 国内向け1,500千円 海外向け3,500千円	
事業概要：	[平成31年度] ニーズ調査の結果を踏まえた旅行商品造成のため、国内旅行者及び訪日外国人旅行者それぞれに対しモニターツアーを実施する。海外向けについては、台湾及び欧米からの旅行ニーズへ対応するため、サイクリングでの着地型有料ガイド周遊ツアー等を前提に検討。 [平成32年度] ニーズ調査及びモニターツアーの結果を踏まえ、旅行会社及びメディア関係者を対象としたファムツアーを実施する。					
評価指標区分：	日本遺産に関する旅行商品数			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	日本遺産に関連して開発する旅行商品数					
目標値：	平成 29 年度	0 商品	⇒	平成 35 年度	10 商品	
事業⑦： 案内看板の整備						
事業区分：	公開活用のための整備		事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 31 年度		
補助金額：	平成30年度：	—	平成31年度：	15,000千円	平成32年度：	—
(積算)	—		メイン看板2,500千円×2基 構成文化財看板800千円×10基 表示内容・デザイン等2,000千円		—	
事業概要：	日本遺産のストーリーを伝える統一看板の設置により、来訪者の満足度度向上に資するための環境整備を行う。また、周遊ルートと連動した設置・内容を検討する。					
評価指標区分：	その他			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	吉備路エリアの観光入込客数					
目標値：	平成 28 年	1,552 千人	⇒	平成 35 年	1,909 千人	
事業⑧： 日本遺産センターの設置						
事業区分：	公開活用のための整備		事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 30 年度		
補助金額：	平成30年度：	12,000千円	平成31年度：	—	平成32年度：	—
(積算)	拠点施設：鬼城山ビジット3,500千円 PR施設：3施設各2,500千円		—		—	
事業概要：	来訪者の拠点施設及び案内窓口となる「日本遺産センター」の設置を行う。設置に当たっては既存施設を活用し、鬼城山ビジターセンターを拠点施設、ももたろう観光センター（JR岡山駅地下）、岡山県古代吉備文化財センター、赤磐市山陽観光案内所兼特産品販売所「稚媛の里」をPR施設として整備。					
評価指標区分：	その他			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	吉備路エリアの観光入込客数					
目標値：	平成 28 年	1,552 千人	⇒	平成 35 年	1,909 千人	

事業⑨：		シンポジウムの開催					
事業区分：		普及啓発		事業期間：		平成 31 年度 ～ 平成 31 年度	
補助金額：		平成30年度： —		平成31年度： 1,500千円		平成32年度： —	
(積算)		—		会場費300千円, 登壇者謝礼200千円×2人, 運営委託500千円,チラシ等300千円		—	
事業概要：		地域内での普及啓発のため、温羅退治の伝承にまつわる有識者、活動を行う市民団体、地域資源の活用による観光客誘致の専門家等によるシンポジウムを開催する。					
評価指標区分：		その他				(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：		構成する4市の地域に対する誇り・愛着を感じる住民の割合					
目標値：		平成 28 年度		35.2 %		⇒ 平成 35 年度 40.7 %	
事業⑩：		出前講座の実施					
事業区分：		普及啓発		事業期間：		平成 31 年度 ～ 平成 32 年度	
補助金額：		平成30年度： —		平成31年度： 500千円		平成32年度： 500千円	
(積算)				[小学校] 謝礼20千円×16校(各市4校) その他180千円		[市民] 謝礼20千円×2人×4回(各市1回), 会場費20千円×4回,その他260千円	
事業概要：		小学生や市民を対象とした日本遺産の講座を、地域のガイドや有識者を講師として開催する。 [平成31年度]「みんなで学ぼう日本遺産！-桃太郎伝説が生まれたまち-」をテーマとし小学生を対象に開催。 [平成32年度]日本遺産の魅力及びこれまでの協議会の取組内容について市民を対象に開催。					
評価指標区分：		その他				(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：		構成する4市の地域に対する誇り・愛着を感じる住民の割合					
目標値：		平成 28 年度		35.2 %		⇒ 平成 35 年度 40.7 %	
事業⑪：		ガイド育成研修会の開催					
事業区分：		人材育成		事業期間：		平成 30 年度 ～ 平成 32 年度	
補助金額：		平成30年度： 2,000千円		平成31年度： 3,000千円		平成32年度： 3,000千円	
(積算)		[有償、ボランティア合同]6回程度 委託1,500千円,会場150千円, その他350千円		[有償、ボランティア]各6回程度 委託2,500千円,会場200千円, その他300千円		[有償、ボランティア]各6回程度 委託2,500千円,会場200千円, その他300千円	
事業概要：		[平成30年度]有償ガイド、ボランティアガイドの育成のため3年間による研修会を実施。(初級：知識習得を中心) [平成31年度]有償ガイド、ボランティアそれぞれに対応した研修実施。(中級：現地実習) [平成32年度]引き続き有償ガイド、ボランティアガイドの研修を行い、研修修了者の認定を行う。(上級：現地での実践)					
評価指標区分：		ガイド育成講座修了者の後年度活動者数				(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：		ガイド育成講座修了者の後年度活動者数					
目標値：		平成 29 年度		0 人		⇒ 平成 35 年度 100 人	
事業⑫：							
事業区分：				事業期間：		平成 年度 ～ 平成 年度	
補助金額：		平成30年度：		平成31年度：		平成32年度：	
(積算)							
事業概要：							
評価指標区分：						(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：							
目標値：		平成 年度		人		⇒ 平成 年度 人	



## （7）その他事業

事業①：	史跡造山古墳第五古墳（千足古墳）保存整備（歴史活き活き史跡等総合活用整備事業）：岡山市		
機関・団体：	文化庁	事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 35 年度
事業概要：	千足古墳の環境整備工事（墳丘復元・石室見学施設設置など）の実施		
事業②：	市内重要遺跡範囲確認調査（埋蔵文化財調査事業）：岡山市		
機関・団体：	文化庁	事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 35 年度
事業概要：	造山古墳の範囲確認のための発掘調査		
事業③：	国指定重要文化財（建造物）吉備津神社北隨身門保存修理：吉備津神社		
機関・団体：	文化庁	事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 35 年度
事業概要：	国指定重要文化財（建造物）である吉備津神社北随神門の屋根替等の部分修理		
事業④：	史跡保存整備事業（歴史活き活き史跡等総合活用整備事業）：赤磐市		
機関・団体：	文化庁	事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 35 年度
事業概要：	構成文化財である両宮山古墳の保存・整備など		
事業⑤：	史跡鬼城山保存整備（歴史活き活き史跡等総合活用整備事業）：総社市		
機関・団体：	文化庁	事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 35 年度
事業概要：	鬼城山の環境整備工事（復元土塁改修など）の実施		
事業⑥：	サイクリングロード整備事業：岡山市		
機関・団体：	文化庁以外の省庁	事業期間：	平成 28 年度 ～ 平成 31 年度
事業概要：	平成29年度、吉備路自転車道の統一路面表示を実施。平成30年度は、サイクリング利用者用マップを作成。海外からの利用者にも対応するため多言語対応も検討。 ※吉備路自転車道は日本遺産の主要な構成文化財に近接		
事業⑦：	おかやま観光情報発信事業		
機関・団体：	自主事業	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 31 年度
事業概要：	「未来へ躍動する桃太郎のまち岡山」のシティプロモーションとして、岡山市出身の女優：桜井日奈子を起用し「鬼カワイイ」をコンセプトとしたファッションや吉備路等で撮影したPR動画の制作、回遊イベント等を展開。また、平成29年度については、吉備路周遊バスツアーを実施。		
事業⑧：	圏域内周遊に向けた歴史・文化資源発信事業		
機関・団体：	自主事業	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 32 年度
事業概要：	連携中枢都市圏（8市5町）を中心に「古代吉備の国の繁栄」「備前池田家と郡代津田永忠の国づくり」をテーマに、小説家・児童文学作家のあさのあつこ氏が執筆した短編集を活用しながらプロモーション等を実施。		
事業⑨：	J R 吉備線（桃太郎線）L R T 化の検討		
機関・団体：	自主事業	事業期間：	平成 26 年度 ～ 平成 年度
事業概要：	鉄道のL R T（Light Rail Transit）化、新駅設置、駅前広場整備などにより、鉄道の利用環境を改善することで、車から鉄道への転換を促し、過度な車依存社会から人や公共交通中心の社会への転換を図るため、L R T 化の検討を実施。		
事業⑩：	中国横断自動車道岡山米子線4車線化の促進（高速道路料金割引社会実験）		
機関・団体：	自主事業	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度
事業概要：	岡山連携中枢都市圏連携事業として、圏域内の人・モノの交流促進や、構成文化財が位置する国道180号線等の渋滞緩和を図るため、中国横断自動車道岡山米子沿線のエリア内割引や吉備スマートIC利用者への割引を社会実験として実施する。		
事業⑪：	造山古墳ビジターセンター（仮称）整備事業		
機関・団体：	自主事業	事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 年度
事業概要：	造山古墳をはじめとする日本遺産構成文化財を案内するガイド施設を整備、運用開始。		